

## 活動記録書

開催日： 令和6年7月4日(木) 天候 曇り	開催テーマ： 腰越の路地散歩
開催場所：鎌倉市	記入者：横山美智男
参加人数：会 員 24 名 ビジター 0 名 計 24 名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：(腰越駅)～諏訪神社(集合)～本龍寺～宝善院(昇堂拝観)～法源寺～龍口寺(昇堂拝観)(解散)</p> <p>今回は熱中症警戒アラートの発令により、当初計画を一部変更しての探訪となった。</p> <p>腰越は日本武尊も通ったといわれる古東海道の宿駅として古くから栄え、頼朝の時代には宿次過書奉行が置かれ、人と物の出入を厳しく監視した。義経が奉行に足止めされた場所であり、義経の首が奥州から送られてきて、首実検されたと伝えられるのも腰越海岸である。</p> <p>腰越駅近くの諏訪神社に集合し、熱中症の注意とコース変更を確認して出発。</p> <p>境川沿いに歩き本龍寺に向かう。途中の道端に五体の道祖神塔・庚申供養塔が集められていた。本龍寺は境内には入らず入口付近での簡単な説明のみ。龍口寺輪番八ヶ寺の内、最も早い時期に建てられた寺。比企大学三郎高家（比企能員の子といわれる）の屋敷跡といわれる。入り口付近の鉢植えの蓮が見ごろであった。</p> <p>20分ほど歩き、腰越中学校近くにある宝善院へ。真言宗大覚寺派、創建は天平神護年間（765～767）。白山信仰の開祖である泰澄大師が、日頃信仰していた十一面観音をこの地に祀ったのがこの寺の起りこりとされている。江戸時代には、宝善院の僧が龍口明神社の別当に任じられ、村人の信仰を集めて栄えたが、明治の神仏分離にて現在の寺容となった。薬医門様式の山門を入った境内には、本尊の木造薬師如来立像（鎌倉時代の作と伝わる）を祀る本堂、鎌倉最古ともいわれる泰澄ゆかりの平安仏・木造十一面観音菩薩坐像を祀る観音堂、少し離れて大師堂がある。いずれも昇堂拝観し住職の丁寧なお話を伺った。また江の島の総別当を務めた岩本院(老舗旅館岩本楼の前身)の歴代住職の墓があり、龍口明神社と江島神社を結ぶ宝善院の役割を窺わせる。</p> <p>法源寺に向かう途中の腰越5丁目の戦没慰霊碑のある辻には、明治のはじめ頃まで十一面観音を安置していた観音堂があったが、宝善院に移されたと伝えられている。</p> <p>住宅街を抜け法源寺へ、境内には入らず簡単な説明のみ。法源寺の異名はぼたもち寺。龍ノ口の刑場に引かれて行く日蓮に、比企能本夫人の姉（印東 祐信の妻）・棧敷尼がぼた餅を捧げ、棧敷尼の実家の菩提寺であったことがそう呼ばれるようになった理由の一つといわれる。</p> <p>数分歩くと龍口寺に到着。日蓮上人（1222～1282）が入滅後、直弟子日法が「龍ノ口の法難の霊蹟」として一堂を建立し、自作の日蓮上人像と「首の座の敷皮石」を安置したのが龍口寺の始まりという。山門は櫓造り銅板葺。親柱と控え柱間の羽目板四面の両面に、中国の様々な故事に因む見事な彫刻が施されている。大本堂は天保三年（1832）竣工。櫓造り銅板葺。間口12間、奥行15間。神奈川県 대표적인 木造大建築物。正面に日法上人作の日蓮上人像が安置され、脇陣に六老僧（日昭、日朗、日興、日向、日頂、日持）、鬼子母神、加藤清正公像が祀られ、敷皮石も安置されている。門前に集合し解散。</p>	
<p><b>参加者の状況・意見など</b></p> <p>熱中症アラート発令で短縮コースとなり、昇堂拝観をゆっくりできて却って良かった。厳しい暑さに注意を払いながら無事に探訪できて良かった。</p>	
<p><b>次回の予定：</b></p> <p>・令和6年8月1日(木)13時30分(受付13時) 金沢公会堂多目的室 講演「鎌倉の祭りと行事」鎌倉ガイド協会会員 松林宏 氏</p>	